

CIGRE WG B3.22(UHV 変電所の技術要件調査)東京会議開催報告

WG B3.22 主査 横田／幹事 上原

WG B3.22(Technical Requirement for Substations Exceeding 800kV)の第10回会議が、3月23-24日に東京(株東芝本社会議室)で開催されました。今回の会議には、9ヶ国から総勢24名の方が参加し活発な討議がなされました。

WG B3.22 は中国、インド、日本などの各国で UHV 系統(電圧 1100kV~1200kV)の建設計画が具体化されたのを受け、UHV 変電所として考慮すべき技術要件を調査・取りまとめるため 2007 年に設置されました。この分野では日本が卓越した技術を有していることもあり、Convener に横田氏(株東芝)が就任し WG 活動をリードしてきました。

UHV 変電所では発生サージレベルを低減しコンパクト化、高信頼度化を達成するため、投入・遮断抵抗方式の遮断器や抵抗付き断路器、高性能避雷器、高速接地開閉器など新たな技術を採用しています。また、変電所システムとして絶縁協調、レイアウト、耐震、汚損、EMC、建設・現地試験など幅広い仕様検討を行っています。WG B3.22 では、これらを調査・分析し体系的に技術要件を整理してきました。

今回の会議では、技術報告書「TECHNICAL REQUIREMENTS FOR SUBSTATION EXCEEDING 800KV」の最終案を審議し、約 150 ページに及ぶ“UHV 変電所に関する知の財産”をまとめることができました。その内容の多くは日本と中国のデータに基づくものであり、日本発の UHV 技術が広く認識された事は大きく、今後の IEC 規格へつながっていくものと期待されます。また、会議終了時に中国委員が特に発言を求め、日本の貢献に謝辞を述べられたのが印象的でした。

(追記: 桜の花は満開とまではいかなかったものの、天婦羅、弁当など参加者は日本の文化と春を楽しんだようである。また、23 日には NHK の取材も入り何時になく緊張気味の会議となりました。)



図. 1 B3.22(UHV 変電所)の会議風景(3月23日)



図.2 NHK の取材もあった会議風景(3月23日):少々緊張気味か?

以 上